

令和2年度

佐那河内小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長：後藤田育秀	教頭：佐古晴輝	教務主任：清水愛
		特別支援コーディネーター：和田久美子		
		低学年推進員：新居聡	国語主任：清水愛	
福井 光恵		高学年推進員：福井光恵	算数主任・人権教育主事：福田明美	

校長

後藤田 育秀



○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○獲得した知識や技能を様々な場面で使おうとしている。 漢字や基本的な計算については、一定の成果が見られる。 ●学力の個人差が大きい。漢字やローマ字を確実に覚えていなかったり、漢字を文章中で適切に使えていなかったりする。苦手と感じている分野に対する知識獲得への意欲が乏しい傾向が見られる。	・漢字・計算・音読等の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、意欲的に生活場面や活用場面で使うことができる。 ・語彙数を増やすとともに、正しい言葉や漢字で文章を読んだり書いたりできる。 ・学習した知識・技能が社会でどのように活用されているかを意識することができる。	・ドリルタイムで、漢字・計算等を繰り返したり、定期的に小テストを実施したりし定着を図る。「話し方・聞き方ナビ」を活用する。 ・朝の10分間読書や週末読書を奨励するとともに、文章表現や漢字を適切に使えているかの点検等、ノートや日記、作文の指導を充実させる。 ・構造的な板書を心がけ、言語環境を整える。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習内容を基にして、新しい考え方を導き出したり、表現できたりする児童が多い。多角的な視点で思考しようとしたり、自分の考えを積極的に発表し、文章で表現しようとしたりする力が付いてきた。 ●理由付けをする、具体例を挙げる等、筋道を立てて説明したり、文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理したり、関連付ける等の力にも個人差がある。	・目的や相手を意識し、根拠や理由を明らかにして、自分の考えを積極的に話したり、書いたりできる。 ・目的や相手に応じて、内容や方法を考えながら文章や絵・図などを組み合わせたり、資料を適切に使用したりし、自分の考えを表現することができる。	・学習の過程を明確にし、児童が自分の考えを筋道立てて話したり、書いたりする時間を設ける。(ナビや手引きの利用) ・作文読本を効果的に活用し、学期に2回、数名ずつ投稿する。 ・月2回 NIE の実践、また新聞の教材としての活用や国語科での並行読書等、様々な文章や資料を読む機会を充実させる。 ・ホワイトボードミーティングの手法を取入れたり、タブレットを活用したりし、ペア、グループでまとめて発表する機会を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習習慣が身に付き、落ち着いて話を聞き、真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について積極的に取り組んでいる。読書を好意的に捉えている児童が多い。 ●自ら課題を見付け取り組んだり、学びを振り返るなど、能動的に学習に取り組むことが苦手である。現状に満足し、自分の考えや答えに自信のない児童が多い。	・自分の考えを話す、友達の意見を聞く等の豊かな言語活動や学習活動を通して、わかり合う喜びを感じることができる。 ・学習課題を自分の課題として具体的に考えて取り組み、学びを振り返ることができる。 ・自分自身を向上させたいという意欲をもち、自主的に学習に取り組むことができる。	・学習過程を明確にし、特に振り返りの時間を必ず設定する等、学びの質を高めるための授業改善に努める。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、学年に応じた時間や内容で家庭学習ができるように家庭と協力して取り組むとともに、家庭学習時間の調査を行い、保護者へ家庭学習の重要性の啓発を行う。また、手引きをもとにした自学ノートの公開等も行う。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

